## トップニュース

# 「みんなの顔見てほっとした」

## 仮本堂にかつての笑顔が戻る

## 能登町・法栄寺でサロン開催

昨年10月から能登半島地震被災地の仮設住宅や寺院などで被災者の心のケアを目的にサロン活動を展開する宗派の能登半島地震支援センター(金沢市・金沢別院内)は1月28日、石川県能登町九里川尻地区にある法栄寺(弘﨑信正住職)で初めてのサロン活動を行った(写真)。同寺は本堂、庫裏などが全壊、門徒もすべて被災し、全半壊した自宅を解体して仮設住宅で暮らす人も少なくない。この日は11人の門徒が仮本堂で開かれたサロンに集い、「仏さまに見守られてみんなと楽しく話をできる場所ができたのはうれしい」と心安らぐ一時を過ごした。

法栄寺は昨年1月の地震で本堂、庫裏など境内のほとんどの建物が全壊、11月にそれらをすべて解体した。境内で唯一残ったのは離れの建物(準半壊)。その一室(10畳)を仮本堂にし、本堂から搬出したご本尊を安置している。サロン活動はこの仮本堂で行われた。

同寺では新型コロナの流行前まで、弘﨑弘美坊守が中心となり、高齢者が孤立しないようにと毎月「寺カフェ」を開催し、門徒や地域住民の交流の場を提供してきた。しかし、2020年2月に休会して以来、再開できずにいた。弘美坊守は「昨年から再開しようと思っていた矢先に地震が起きた。仮設に移られたりと、ばらばらになった皆さんのことがずっと心配で、何とかできないかと支援センターに相談すると、『お寺でサロン活動を開きましょう』と言ってくださった。後片付けなどに追われて先が見えない中で、こういう形で『寺カフェ』再開のきっかけを作っていただき、よかった」と喜ぶ。

仮本堂には門徒11人が集った。支援センターのスタッフやボランティアで駆けつけた東京教区青年僧侶協議会(東青僧)の会員4人が茶菓を持参し、被災当時の状況や仮設住宅などでの生活について語る門徒の声に耳を傾けた。最後に東青僧の喜代多隼さんが龍笛を披露。唱歌「ふるさと」を演奏すると、笛の音色に合わせ、門徒たちが「うさぎ追いし…」と歌った。

門徒総代の綿谷利男さん(74)は「門徒の中には自宅が全半壊して仮設住宅で暮らしている人も多い。こうしてお寺に来て、くつろいで会話を楽しむ時間を作っていただきありがたい。昨年12月にはこの仮本堂で、門徒25人がお参りし、報恩講を営むことができた。少しずつだが、ご住職も法務を再開されている。本堂の再建を目指したい」と話す。

隣の松波地区に建設された仮設住宅で1人暮らしする大倉悦子さん(82)は「自宅が全壊し、中に閉じ込められた時に住職夫妻が助け出して車で避難場所まで乗せていってくれた。仮設での暮らしにもようやく慣れ、友人もできたので私はもうじゃまない(大丈夫)。こうしてお寺に集まり阿弥陀さまに見守られてみんなと笑顔でおしゃべりしていると本当に心が安らぐ」と笑顔をみせた。

同仮設で息子と一緒に暮らす大谷内けい子さん(73)は「こういう場があることはうれしい。みんなの顔を見るとほっとするし、いろんな話をしているうちに心が落ち着いてきた。津波で壊れた家を再建してこれからもふるさとの能登町で暮らしていきたい。その元気をもらうためにも、これからもサロンに通いたい」と話した。

龍笛を披露した喜代多さんは「被災された皆さんの話をうかがっていると言葉では表せないような悲しみを感じた。『ふるさと』を一緒に歌われた皆さんには、『ふるさと』に込めたそれぞれの思いがあるのだと思った。皆さんのふるさとの復興を願いたい」と語った。

弘美坊守は「今日参加してくれたほとんどの方は、かつて『寺カフェ』に集われていた人たち。支援センターのおかげでこうして『寺カフェ』を再開することができ、かつてのような笑顔でお話しされている姿を見ることができて本当にありがたかった」とほほ笑んだ。弘﨑住職は「みんなに集まってもらい、悩みや困りごとなどを含め、言いたいことを出し合ってもらう場ができたことはありがたい。これが本堂復興の一つの糸口になり、たとえ小さくてもいいから門徒や地域の人たちが集える居場所を作っていけたら」と本堂の再建を目指す。サロンは毎月開催される。

**能登半島地震支援センターのサロン活動**　被災者の心のケアを目的に、石川県珠洲市、能登町、穴水町、七尾市の仮設住宅や寺院などで定期的に開催。お茶を飲みながら気軽に交流できる場を設け、高齢者などが孤立しないようなコミュニティー作りを支援するほか、不安や苦悩に寄り添う傾聴活動を行う。同センターではサロン活動のボランティアを募集中。また、サロンで提供する菓子類の提供も呼びかけている。詳しくは支援センターホームページ。https://jovial-notosien11.wordpress.com/

# 災害時の施設の在り方は？

## 避難者受け入れの経験聞く

本願寺派関係高齢者施設連絡協議会

宗門関係の社会福祉法人や寺院などが運営する高齢者施設177施設で組織する浄土真宗本願寺派関係高齢者施設連絡協議会は、本山で1月13、14日に職員研修会を開催。能登半島地震で避難所として被災者を受け入れた石川県珠洲市の特別養護老人ホーム長寿園・横山博一副施設長の講演を聞き、災害時の介護施設の在り方などを考えた。

横山さんは「能登半島地震における介護施設の対応」と題して1年間の歩みを語った。同園は、少し高台にある立地条件から津波の一時避難所に指定されており、地震で壁に亀裂が入るなどの被害を受けたが、発災直後には約250人の地域住民らを受け入れたという。横山さんは「発災時にいた職員は38人。入居者、デイサービス利用者は合わせて123人だった。そのスペースは確保しつつ、ロビーやデイサービスの場所で避難者を受け入れた。一時的な待避場所としての想定はしていたが、長期的に滞在される想定はしておらず混乱した。自らも被災した職員たちが頑張り続けてくれた」と話した。

ライフラインが止まる中での食事の提供、トイレの問題など数々の困難な状況に直面したことや、入居者86人の体調を考慮し1月中にやむなく県内外の他の施設に避難してもらったこと、10月15日に避難所が閉鎖となるまでの対応などについて説明していった。

講義後の質疑応答では、参加者から「対応にあたった職員の心身のケアは」と質問が上がり、横山さんは「ライフラインが止まると、どうしてもマンパワーに頼ることになる。しかし、それも限界がある。石川県に心のケア事業があり、職員にアンケートを取ってもらい、医師など外部の人たちから心身のケアの働きかけがあった」と説明。また、「転居した入居者が戻ってこられた時の様子は」という問いには、「やはりすこし痩せておられるように感じた。ただ、高齢者の方々は自分が生まれ育った故郷に戻りたいという思いが強く、何とか戻ってきてもらおうと思った」と話した。そして、「さまざまな問題、課題に対応するために、常日頃から行政や他の高齢者施設などと連携を密にしておくことが大切」とアドバイスを送った。

講義後には、同協議会からの見舞金を一乗康純副会長らが横山さんに手渡した(写真)。横山さんは「震災から1年が経ち、人々の関心が薄れつつある中でこうして研修会に招いていただき、その上、見舞金まで頂戴した。私たちのことを忘れずに支援してくださっているという思いをありがたく受け止めさせていただいた」と話した。

# 本願寺新報
hongwanji journal

2月20日(木曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派(西本願寺)
〒600-8501　本願寺出版社内
電話　075(371)4171(代)／FAX075(341)7753



茶道 藪内家燕庵
京都市下京区西洞院正面下ル
http://www.yabunouchi-ennan.or.jp


### 新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された　歴代宗主の
尊いお導きに　よるものです

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

### 赤光白光

岡山県内の総合病院で、パワハラが原因と思われる中途退職が相次いでいると地元紙が報じている。入院患者が亡くなった際に上司から「あんたが殺した」などの暴言を浴びせられた看護師もいたという。同紙の取材に対して複数の中途退職者が「ハラスメントが原因で退職した」と答えている。

▼現代の医学をもってしても治癒が難しい病気もある。それでも患者の苦痛や苦悩を少しでも和らげようと多くの医師や看護師が懸命に治療、看護に努めている。力及ばず患者が亡くなってしまった時、「それは、あなたの責任だ」と言われた医師や看護師のショックはいかばかりか。心が折れそうになる。

▼おだやかな顔と優しい言葉を意味する「和顔愛語」は仏教界だけでなく、教育現場やいろんな組織・団体においてもよく用いられ、なじみが深い言葉である。これは『仏説無量寿経』に説かれる言葉で、この後には「先意承問」と続く。「和顔愛語」ほどは知られてはいないが、相手の意志を先んじて知り、よく受け入れて教え導く、という意味である。

▼一生懸命に取り組んでも思うような結果が得られないこともある。そんな時に人は自責の念にかられたり、また内心に忸怩たる思いを抱くことがある。そうした気持ちや立場をまずくみ取って、「和顔愛語」で接してくれる人が周りにいてくれたら、その人はどんなに救われることだろうか。人を傷つけ、追い込むような表情や言葉ではなく、「和顔愛語」「先意承問」で温かな人間社会を築きたいものだ。


MIDO 御堂さん SAN

リレーエッセー　私の四苦八苦
連載エッセー　トイレで地球を救う
僧侶が斬る　慈悲のワイドショー
悩み相談　駆け込み堂
聖典講座　三帖和讃
仏教　妙好人から味わう
マンガ　お寺の掲示板
料理　防災キッチン
映画　おすすめ名作映画
4月特集　バンザイ誕生秘話

4月号からリニューアル！
他にも、カラーグラフに川柳、パズルなど楽しいページが盛り沢山！

| 部数 | 単月購読 | 年間購読 |
|---|---|---|
| 20部~ | 110円 | 90円 |
| 100部~ | 100円 | 80円 |
| 500部~ | 90円 | 70円 |

年間購読(1部) 2,400円 送料込み
(1部税込単価 ※別途、送料がかかります。)

御堂さん編集部　〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-3　TEL: 06-6261-6796
ネット注文も受付中 ▶▶ E-mail : midosan-koudoku@kitamido.or.jp　FAX: 06-6261-6828

探究社 https://www.tankyusha.co.jp

お寺と家族をつなぐ法話の便り
お彼岸
よろこび
執筆者　前田 壽雄　浄土真宗の風景　三上 章道　斯波 徹真　近松 真定　湯上大ゆかの地　伝説とお念仏
※100部以上のご注文で3割引
132円

●新刊
仏恩報謝
林 智康
念仏者は無碍の一道なり
四六判並製　1100円
著者が各誌面に掲載した六編の原稿を一冊にまとめた内容となっている。「目次」先祖がいちばん望むことは・報恩講を迎えて・まことの信心うる人に・報恩講をお迎えして・信心まことなる人に・「安城御影」と『尊号真像銘文』・妙好人「能登の栃平ふじ」・加賀の千代尼・浄土真宗と妙好人

●重版のご案内
知っておきたい浄土真宗
葬儀とお仏壇について
福岡教区福岡組基幹運動推進委員会 編
176円
浄土真宗の葬儀についてイラストを交えて詳しく解説している。世間の風習や迷信に振り回されることなく浄土真宗の葬儀をおこないたいとの願いから作成された。また、浄土真宗のお仏壇についてもカラー写真で分かりやすく説明している。

〒520-0027　大津市錦織2丁目9-30-101
TEL 077 (599) 4201　FAX 077 (599) 4220
【e-mail】post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込】

法藏館
https://pub.hozokan.co.jp

新装版
親鸞のダイナミズム
大峯 顯[著]　"民族宗教""日本教"を超えた思想家親鸞の全容を見事に解き明かし、世俗化時代の宗教再生の方途を真摯に提言した話題の書。
一九八〇円

親鸞のコスモロジー
大峯 顯[著]　念仏とは宇宙の法則に従うことである。概念化された言葉の殻をラディカルに打ち破り、親鸞浄土教のダイナミックな世界観を描き出す。
一九八〇円

高津正道の僧籍剝奪を問う
高津正道の僧籍剝奪を問う会[編]　戦前に本願寺派の僧籍を剝奪された高津正道の思想と活動を辿り、高津の僧籍剝奪という事実が現代の本願寺教団に問いかけるものを探る。
一八七〇円

施本に最適！
〈季刊誌〉ひとりふたり・春彼岸を迎える
身近な話題から仏教、真宗の教えにふれる聞法誌。
一三六円
三〇部以上のご購入で一部一〇円に割引。

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円(税込)以上送料無料

最新刊
東西本願寺120のちがい
鎌田宗雲著　定価3300円(税込)
主に前半は、東西本願寺の組織・寺紋・荘厳・勤式・作法など一二〇項目のちがいを紹介する。後半は、歴史的な視点も踏まえて東西本願寺のちがいに着目し、主に東騒動に関して時系列で振り返りながら解説する。

値遇のこころ
川添泰信著　定価1100円(税込)
本願寺の新報、または小冊子や、大学における掲示伝道の標語の解説などをまとめた法話集。主な内容として、お辞儀と礼拝／握手と合掌／「僧越」と「ジョーク」／蜘蛛の糸／安穏の未来／浄土真宗のお彼岸／この世にて／など。

真宗からの華厳・天台読本2　教義編
北塔光昇著　定価2200円(税込)
真宗僧侶が華厳と天台の二大宗旨を深く学ぶことは、これからの伝道布教の上でも非常に重要である。この書では、前書経典編を踏まえ、各々の歴代祖師や教義をいくつかの部門に分けてわかりやすく解説する。

永田文昌堂　600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入
TEL 075-371-6651　FAX 075-351-9031